

今年度 第一回 保護者会&就労者親の会定例会 報告 ~各回、会場の上限人数での参加でした。



- 自立訓練事業で大切にしていること
- 昨年度の取り組みの報告
- 今年度の取り組みの様子を紹介
- 工場見学

自立訓練
5/14、21、28
※分散開催

コロナ禍での支援の共有



就労移行
5/14

- 事業報告、計画
- 就労ガイダンスの様子を紹介
- 余暇プログラムの様子を紹介
- 各班作業、緑地管理作業の説明

来所の機会が減少する中、久しぶりの対面 & 今後、新しい園との関わりがスタート

- 事業総括
- 近況報告
- 作業や生活の様子を紹介(動画)
- 余暇プログラムの説明

継続B
5/21、28
※班毎開催

親の不安や困り事の相談

支援センター
6/4、11、18
※分散開催

- 事業報告
- 余暇、短期入所の紹介
- コロナ禍における困り事相談(余暇、リフレッシュ、親亡き後の暮らし等)

【これからの保護者会/就労者親の会の活動について】

定例会 各会とも年間予定に基づいて開催を予定しておりますが、社会情勢等によって開催時期や開催方法に変更が生じる可能性があります。各会からの連絡をご確認いただくのと、ホームページにも最新情報を掲載します。

保護者サークル活動 これまでの手作りボランティアに代わり、今年度途中より新たに始まる保護者の活動です。あかね園本場の保護者会室を「地域交流スペース①」、第2作業場の保護者会室を「地域交流スペース②」とし、各サークルの予定に沿って活動します。詳しくは各会からのお知らせをご確認ください。

新職員紹介 ~前年度後半から今年度新たに新に入職した職員を紹介します。



ふるうち ちひろ
古内 千尋

昨年の8月に入職し、自立訓練事業を経て今年度より支援センターに配属となりました。前職は、リハビリ病院で医療相談員をしていました。利用者・登録者の皆さんが、安心して仕事に臨める環境作りをお手伝いさせていただきます。新しい分野での挑戦となりますので、日々利用者の皆さんから学ばせていただき、一緒に成長していきたいと思っております。



さわだ あつのぶ
澤田 篤信

今年1月に入職しました。以前は食品会社に勤めていましたが、予てより福祉に興味があったという思いから転職しました。今は、自立訓練事業に所属しています。先輩職員の姿を見ながら、日々自身も勉強し、あかね園の利用者の皆さんに寄り添った支援をしていけるよう頑張ります。



よしだ りょうや
吉田 亮也

今年2月より就労移行支援事業の配属で勤務しています。あかね園で常に意識していることは、社会人としての作業姿勢です。皆さんに伝える言葉と行動が伴うよう日々自分の行動を見直し、しっかりとした社会人の姿を見せられるように意識しています。利用者の方々の就職をしたいという気持ちが形にできるような支援を目指して日々精進していきたいです。



はやし ゆか
林 優花

今年度4月に入職し、自立訓練事業に配属になりました。利用者の方々が就職に向けて仕事のやりがいや楽しさを感じられるよう支援をしていきたいです。社会人になってまだ日も浅く、至らない所はあるかと思いますが、利用者・保護者の方々があかね園に来て良かったと思ってもらえるよう精一杯頑張っていきます。



どうぞよろしくお願ひいたします。

あかねの集い

第173号
令和 3年 7月 1日
発行者
社会福祉法人あひるの会 あかね園
〒275-0024
千葉県習志野市茜浜3-4-5
TEL 047-452-2715
http://www.akaneen.com/



コロナ禍での「気づき」をこれからの生かす
~「見えた」「見えない」「見たくない」本人や家族の思い~

あかね園施設長 松尾 公平

この1年で私達の生活は一変しました。新型コロナウイルスの感染防止に伴う、様々な「自粛生活」は新しい生活様式と共に利用者や家族に“新たな課題”や“様々な不安”を突き付けられました。このコロナ禍での1年を振り返り、利用者や家族にとっての「見えた(課題)」「見えない(不安)」、そして「見たくない(思い)」について記したいと思います。

【見えた(課題)】

—余暇の自立—

コロナ禍において、最も多くの「困り事」が「家での過ごし方」と「余暇」でした。これまでの休日の過ごし方がいかに受動的(他人頼み)であったかを多くの家庭が痛感させられたかと思えます。「外に出られない日でも」「親が付き合えなくても」「高齢になっても」自分自身で(選択して)楽しむ“余暇の自立”が新たな課題として見えました。

—「働くこと」の価値観—

就職した方達の企業先では「感染防止」を理由に長期の休みや出勤日数の大幅な縮小となっている方が多く見られました。「在宅ワーク」の様な課題や業務を与えられることも少なく、「感染の防止」が理由です。もちろん不要不急な外出もできず、一日の在宅時間も長く、「就労意欲の低下」を招いていることや、給与保障がされていることから「働かなくてもお金がもらえる」という“働くこと”に対する価値観が大きく揺らいでいます。

【見えない(不安)】

—地域からの声—

先の見えない状況の中で地域からの厳しい声や実際のトラブルの報告が以前にも増して耳に入ってきます。これまでは地域での一人ひとりの「理解」や「我慢」により事なきを得てきたことが、ちょっとしたきっかけで、トラブルや事件につながるケースが増えていると警察の方からの話もありました。このコロナ禍では多くの人がストレスを抱え、個人の「心のダム」が決壊しやすくなっています。自分の身を守るためにも、ありがちな、「ジロジロ」や「キョロキョロ」「ウロウロ」など「見えない(目の届きにくい)ところの不安」にも、注意を払っていかねばならない事を感じました。

—「対面」の安心感—

あかね園(や就労先企業)への直接の訪問や話を聞く機会等が制約されたことに伴い、多くのご家族が「見えない不安」を感じられ、あかね園への確認や質問等の問い合わせが多い1年でした。日々の連絡帳や電話連絡、広報誌よりも、やはり「自身の目で直接見る」、「顔を合わせて直接話を聞く」ことの大切さを、ご家族もそして、職員も改めて感じさせられた1年でした。

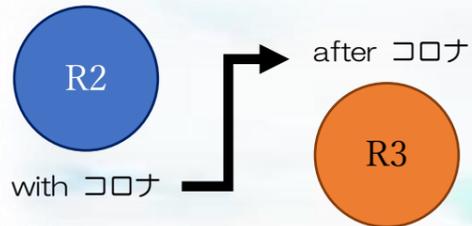
【見たくない(思い)】

—親亡き後—

これまでになく、園生や卒園生の親御さんが逝去されることの多い1年でした。中には一人親のご家庭や急逝だったケースもあり、ご兄弟や親戚の方等の支えにより、何とかこれまでの生活を取り戻している方が散見されました。親だからこそ「まだ、考えたくはない」「見たくない(直視できない)」思いは当然あるかと思えますが、「親の逝去」の場面では、目をそらすことなく、健気に事実を受け入れようとする本人達の姿がいつもそこにはあります。

—文明の利器—

利用者や卒園生のご家庭からはスマホやメール、インターネットやメール等は便利であることは理解していても「難しい」「危ない」等の印象や思いが強く、遠ざける家庭も少なくありません。これからの地域生活や自身の高齢化、親亡き後の助けともなる、「文明の利器」を味方にしていくことも大切です。「あきらめ」や「見たくない」ではなく、これを機に皆さんの色々なことへの「挑戦」につながれば、このコロナ禍も単なる「辛かった」や「マイナス」の経験ではなく、貴重な「気づき」や「きっかけ」の機会をもらえた、とも受け止められるのではないのでしょうか。



新年度を迎えて

あかね園 4～6月のご報告

- 4月 1日 新年度オリエンテーション
- 6月 16日 健康診断（2回目は7月21日）
- 6月 30日 令和2年度賞与支給



自立訓練

○園に着いたらまず朝礼、その後ラジオ体操へ日課を変更
⇒事業混在による更衣室の密の回避 + “園に着いたら仕事！”という意識の強化



○13名の新規入所者を迎え、職員体制も変わり新自立班のスタート



4月：感染症対策
5月：汗処理
6月：お金の管理



【けん玉 & ミサンガ作り（選択制）】



【日に日に上達！集中力・脚力・柔軟力の刺激にも】
【三つ編みに苦戦しつつも初の作品完成！】

○ウォーキングと緑地での軽運動



就労移行

○別館班：朝礼時間の変更
⇒密の回避
○住商班：作業種別に個々の習熟度を表示
⇒状況の見える化 + 挑戦心や向上心の刺激
○全体：緊急時の避難経路の変更
⇒人数増に伴う安全面の再確認

○10名以上の新メンバーを迎え、各班顔ぶれが大きく変化、就職の動きも活発に



4月：感染症対策／就労ガイダンス



5月：朝の身だしなみ
6月：計画立てたお金の使い方

【間違い探し（様々な難易度を用意、参加した職員も苦戦！）】



○休憩時間に、余暇プロの間違い探しを
○班によっては毎朝“何でもお話タイム”を導入

就労定着支援事業
講座と個別のアフターケア



継続B型

○複数担当制の導入 ⇒チーム支援強化+多くの職員との関わりを持ってほしい思いから
○工賃（時給額）アップ ⇒毎月の工賃を日常生活に反映させてほしい思いから
○健康プログラムと休憩時間の変更（午後）
⇒一日の終わりに心身のケア&リラックス

○変更した日課にも慣れ、安定したスタート
○安心した地域生活を送るためのルールやマナーを確認する機会が増加



4月：感染症対策／就労ガイダンス
5月：挨拶／朝の身だしなみ



6月：金銭理解（園内で買い物体験）

【ぬり絵、ちぎり絵、水彩画（選択制）】



○千葉ポートタワー近くの海で水遊び
○園内での創作活動や軽食



支援センター

Topics & Now!

在宅ワークや自宅待機を指示されている登録者も少なくありません。人とのつながりが希薄になりやすい環境において、ストレスを上手く発散する術を身に付けることや、余暇の充実に向けた取り組みが、より必要性を増してきているように感じます。一方、不安を感じながらもしっかりと前を向き、変化を受け入れながら今できること・任された仕事と柔軟に向き合う就労者の姿に、日々力を頂いています。今年度、これまで以上に丁寧さとスピード感を持った支援を心掛けたと思います。



【WEBや電話での支援増加】

グループホーム

Topics & Why?

○将来の個々の目標に向け、ステップアップを目的に一部入居者の異動がありました！
○「メルマガ配信」始めました！空き状況や企画の報告等短期入所利用に関する情報発信に活用します。

Study & Enjoy

月一回の「入居者会議」において、共同生活での困り事や気づきを発信したり、お楽しみ企画の要望を話し合ったりしています。

また、入居者会議で案が出たメニューを定期的にお楽しみ会に反映しています。



【上：短期入所利用者へ洗い物をレクチャー】
【右：コロナ禍での楽しみ、デリバリー企画】

